

A 語句の意味と読み

(1) くわじん／梁の恵王自身。王や諸侯が自分をへりくだって言う一人称。／「徳の寡（すく）ない人」の意。えらそうな一人称ではない

(2) ぞく／穀物。ここでは民に配る食料のこと。／「あわ」一種類ではなく穀物一般を指す

(3) 心を用いること。（民のために）心をくばること。／★今の「用心する＝気をつける」ではない。古今異義語

(4) こふ／「どうか～させてください」と相手に願い出る言い方。／「請ふ～ん」の形。たとえ話を切り出す丁寧な前置き

(5) 太鼓を打ち鳴らす音が鳴りひびくさま。／開戦の合図として軍鼓を打つ場面

(6) 逃げる。（戦場から）敗走する。／★漢文の「走」は「にげる」。ここは敗走の場面

(7) いかん／「(そうしたら) どうであろうか」と、そのことの是非・当否を相手に問う言い方。／「何如」は状態・是非を問い「どうであろうか」。同じ「いかん」でも「如何」は手段・方法を問うことが多い

B 句法

(8) 焉耳矣。三字まとめて「のみ」と読む。※「焉耳矣」を限定（～だけだ）ととる教科書と、断定・強調の助字が重なった形（ひたすら～している）とみる教科書があるので、お使いの教科書の説明に合わせる。／限定説と強調説の両方がある。いずれにせよ「精いっぱいやっている」という恵王の自負を表す

(9) 已然形（「なれ」）に接続し、確定条件を表す。ここは「～すると（いつも）」という恒常条件。／★⑪「笑はば」（未然形＋ば＝仮定）と必ず対にして覚える

(10) 同じ形を並べて並列を表す言い方。「ある者は～、ある者は～」と訳す。／あわせて「而後」は「～してのちに」と読む

(11) 未然形（「笑は」）に接続し、順接の仮定条件（もし～たら）を表す。／★③の已然形＋ばとの見分けが定期テストの定番

(12) 限定。「ただ～だけだ」の意。ここは「ただ百歩でなかっただけだ（逃げたことに変わりはない）」となる。／「直だ～のみ」は、漢字では「直（唯・惟・但・徒）…耳（已・爾・而已）」の形。原文は「直不百歩耳」

(13) 禁止。「～してはならない・～するな」の意。／「無かれ・勿かれ・莫かれ」はすべて禁止。打消の「無し」と読み分ける

C 指す内容・主語

(14) 太鼓（軍鼓）。「鼓」は「打ち鳴らす」という動詞（原文は「鼓之」で、「之を鼓し」と下から返って読む）。ただし、この「之」を特に何も指さない語調を整える助字とみる教科書もあるので、お使いの教科書の説明に合わせる。／直前の「填然として」は太鼓の音の様子。何を打ち鳴らしているのかを考える（教科書によっては、特に何も指さない助字とする）

(15) 梁の恵王の発言。孟子の「則ち何如」という問いかけに答えているから。／漢文の「曰く」には主語が書かれなことが多い。直前がだれの言葉かをたどる

(16) 五十歩逃げて立ち止まったこと（五十歩で止まった兵の行い）。／「百歩でなかっただけで、逃げたことは同じ」という文脈

(17) 五十歩逃げた者が百歩逃げた者を笑えないのと同じで、逃げた距離に差はあっても逃げたことに変わりはない、という道理。／この道理をそのまま「王の政治と隣国の政治」に当てはめるのが孟子のねらい

D 口語訳

(18) 私が国を治めるにあたっては、（民のために）ひたすら心を尽くしているだけだ。※「のみ」を限定でとる教科書では「（ただ）心を尽くしているだけだ」、強調でとる教科書では「ひたすら心を尽くしているのだ」と訳す。②の解答と同じく、お使いの教科書の説明に合わせる。／「～に於けるや」＝「～については」。ここは「国については」＝「国を治めるにあたっては」と補って訳す。「のみ」の訳し方は②の注記を参照

(19) 私ほど（民のために）心を用いている者はいない。／「～がごとき者無し」＝「～のような者はいない」。最上級の言い方になる

(20) もし五十歩逃げたことを理由に百歩逃げた者を笑ったなら、どうでしょうか。／「五十歩を以て」は、漢字では「以五十歩」で、下から上へ返って読む形。「以て」は理由・根拠を表す

(21) 王がもしこの道理をお分かりになるならば、民が隣国より多くなることを望んではいけません。／「如し～ば」＝仮定、「無かれ」＝禁止。「鄰国より」の「より」は、漢字では「於」で比較を表す

E 内容・記述

(22) ①凶作になった地の民を、もう一方の地へ移すこと。②もう一方の地の食料を、凶作の地へ回すこと（河東が凶作のときも同じようにする）。／恵王があげたのは「民の移動」と「食料の融通」の二つだけである

(23) 自分は民のために心を尽くして政治をしているのに、隣国の民は減らず自国の民も増えないのはなぜか、その理由を尋ねている。／「私はこんなに努力しているのに」という自負が前提にある。くわしい政策の中身は④で問う

(24) よろいを脱ぎ捨て、武器を引きずるほど、身を守る装備も戦う道具もかなぐり捨てて、必死に戦場から逃げているという、ひどく取り乱した敗走の様子。／「甲＝よろい（身を守る道具）」「兵＝武器（戦う道具）」。その両方を手放している点に注目する

(25) ①逃げた距離の差が政治の程度の差にすぎないように、恵王の政治も隣国と大差はない。②王道という根本を欠く点は隣国と同じなのに、わずかな善政を誇る恵王の姿勢を指摘しようとした。／①「逃げた距離の差」＝「政治のわずかな差」というたとえの対応、②その差を誇り、民が増えないのを不思議がる姿勢、の二点で組み立てる

F 文学史・故事・思想

(26) 『孟子』（梁恵王上）／孔子／『孟子』は儒家の書。四書（大学・中庸・論語・孟子）の一つ

(27) 性善説／王道／力で治める「霸道」と対になる。荀子の「性悪説」とも対で問われる

(28) 少しの違いはあっても本質的には同じで、大した差がないこと。／大同小異／「どちらも似たり寄ったりだ」。ほめる意味では使わない

【現代語訳（全文）】

梁の恵王が言うには、「私が国を治めるにあたっては、（民のために）ひたすら心を尽くしているだけだ。河内が凶作になると、その民を河東へ移し、河東の穀物を河内へ回す。河東が凶作のときもまた同じようにする。隣国の政治を観察してみても、私ほど心を用いている者はいない。それなのに隣国の民が減りもせず、私の国の民が増えもしないのは、どうしてなのか。」と。

孟子が答えて言うには、「王は戦がお好きです。どうか戦でたとえさせてください。ドンドンと太鼓を打ち鳴らし、武器の刃がすでに交わりました。（そこで兵士たちは）よろいを脱ぎ捨て、武器を引きずって逃げ出しました。ある者は百歩逃げて立ち止まり、ある者は五十歩逃げて立ち止まりました。もし五十歩逃げたことを理由に百歩逃げた者を笑ったなら、どうでしょうか。」と。

（恵王が）言うには、「いけない。ただ百歩でなかっただけだ。これもまた逃げたことに変わりはない。」と。

（孟子が）言うには、「王がもしこの道理をお分かりになるならば、民が隣国より多くなることを望んではいけません。」と。